

(4) 奥能登国際芸術祭の視察報告

佐無田 光

日 時：2017年10月8日（日）

訪問者：佐無田光、佐々木雅幸（アドバイザー）、竹谷多賀子（三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社政策研究事業本部 兼 コーポレート・コミュニケーション室 広報担当）

案 内：眞壁陸二氏（奥能登国際芸術祭の出展作家）

行程と記録：

○上戸地区 寺社の舟小屋 眞壁陸二<青い舟小屋> 眞壁さんによる説明



○飯田地区 旧映画館（飯田スメル館） 南条嘉毅<シアターシュメール>



○飯田地区 古民家 スズプロ<静かな海流をめぐって>

真鍋淳朗金沢美術工芸大学教授より説明



○飯田地区 旧飯田駅 河口龍夫<小さい忘れもの美術館>



○正院地区 旧銭湯 麻生祥子<信心のかたち> 井上唯<into the rain>



○正院地区 旧漁業倉庫 Wu Chi-Tsung + Chen Shu-Chiang <Passing>



○蛸島地区 旧蛸島駅 EKO NUGUROHO <Bookmark of dried flowers>

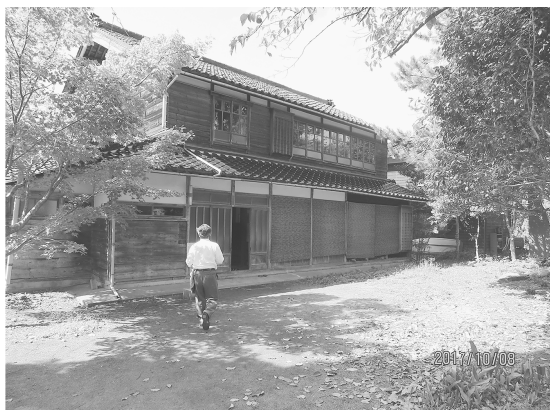


○蛸島地区 旧蛸島駅周辺

TOBIAS REHBERGER <Something Else is Possible / なにか他にできる>



○三崎地区 森腰の古民家 岩崎貴宏<小海の半島の旧家の大海>



○三崎地区 栗津の海岸 小山真徳<最涯の漂着神>



○日置地区 旧日置公民 さわひらき<魚話>

○大谷地区 赤神の小屋 村尾かずこ<サザエハウス>



○大谷地区 旧清水保育所 塩田千春<時を運ぶ船>



○正院地区 旧飯塚保育所 ひびのこづえ<スズズカ>
ひびのこづえ氏より説明



○飯田地区 ラポルトすず 泉谷満寿裕珠洲市長と意見交換



考察メモ：

○奥能登国際芸術祭は何を提起したか。

- ・「さいはての芸術祭」（総合ディレクター：北川フラム）＝大都市圏（東京）からの目線を意識。
- ・アートのパワー：来場者 7 万 1000 人という規模だけでなく、「意味づけ」の手段として強力だった。珠洲の風物がとたんに価値を持ち始めた。石川県民など、ライトな消費者を掘り起こした。
- ・越後妻有や瀬戸内に比べて新しいか？ 同じような「切り取られ方」では飽きられるかもしれない。「地域の価値」は単純化され、テーマパーク化するかもしれない。
- ・奥能登の「本物」の「地域の価値」は何か。アートはそれを引き出しているか。

○「地域の価値」をめぐる論点

- ・地域づくりを持続するためには、「本物」を大事にする必要がある。何を「地域の価値」として守っていくか、それを地域の人たちが共有できるか。
- ・歴史のなかで人々の暮らしや生業が紡ぎだしてきた自然・風景・文化・社会関係。
- ・アートにはパワーがある。地域の資源を意味付けして、消費される「認知」に変える力がある。他者の目線によって、地域の人たちの「認知」も変化する。
- ・都市住民のニーズを的確に把握して、「地域の価値」をプロモートするノウハウを自前のものにできるか。

調査研究の成果（今年度）：

○能登里山里海マイスター育成プログラムのミニシンポ『『地域の価値』を活かした農村の暮らしと生業』を企画・講演。「奥能登の地域経済と『地域の価値』～奥能登国際芸術祭の後」（2018年2月3日）